

# 地域・社会への責任



## 重要課題(マテリアリティ)

### ● 地域・社会との共生などに関連する活動

総合バイオマス企業として、新たな製品、事業を拡大していく日本製紙グループは、広大な森林を育成・管理し、大規模な生産拠点を持つことから、その地域と働く人たちに大きな影響力があります。地域との共存は、当社の持続性にとって不可欠です。

よって、地域・社会との共生などに関連する活動を重要な項目としました。

## 方針とマネジメント

基本的な考え方…………… 68

## 地域・社会との共生などに関する活動

地域振興…………… 69

地域文化の保全…………… 69

地域との共生…………… 69

科学技術の振興…………… 69

## 環境に関する活動

植樹活動…………… 70

生物多様性の保全…………… 70

リサイクル活動の推進…………… 70

## 教育に関する活動

社会見学の機会の提供…………… 71

社有林の活用…………… 71

就業体験の機会の提供…………… 71

スポーツを通じた教育機会の提供…………… 71

# 方針とマネジメント

地域の方々に信頼され、親しまれる企業であるために、各地でさまざまな社会貢献活動を続けています

## ■ 基本的な考え方

### 地域との共生に関する活動など 多彩な活動を展開しています

日本製紙グループは、再生可能な資源である「木」を利用して、紙をはじめとするさまざまな製品を供給することで、持続可能な社会の構築に貢献しています。

国内および海外でのさまざまな取り組みは、工場周辺の清掃活動、植林地域での就業支援など地域に根ざした活動や、社有林を活用した「森と紙のなかよし学校」の実施など、グループの資源を活かした活動にも及びます。

#### 社会貢献活動の理念と基本方針

(2004年4月1日制定)

##### 理念

私たちは社会の一員として、誇りを持って社会全体の発展に貢献する活動を行います。

##### 基本方針

1. 文化の継承・発展に寄与する活動を行います
2. 地球環境の保護・改善に貢献する活動を行います
3. 地域社会の発展に役立つ活動を行います

#### 具体的な活動テーマ

- グループ各社の工場および海外現地法人における地域活動の充実
- グループの専門性や資源を活かした活動の推進
- 従業員が主体となって取り組む社会貢献活動の推進
- 日本国内の社有林(約9万ヘクタール)の有効活用
- 社内外への積極的な広報活動

### ● 社会貢献活動の推進体制

日本製紙グループでは、CSR本部が中心となって、グループ全体の社会貢献活動を推進しています。グループ各社においては、社会貢献担当者をそれぞれ選任しています。各担当者は、従来の地域貢献活動を把握するとともに、それらの充実に努めています。

#### 日本製紙グループの主要な社会貢献活動一覧

主な取り組み	具体例	記載ページ
<b>地域との共生に関する活動</b>		
地域美化活動	事業所周辺の清掃活動	—
地域の安全・防災	子どもの安全を守る取り組み	—
	消防団への参加	61
地域振興	地元特産品の育成	69
地域文化の保全	文化的価値のある桜を守る運動	44
	飛鳥山薪能の運営支援・協賛	—
	先住民への配慮	69
地域との共生	お祭りなど地域行事への参加・協賛	—
	所有する厚生施設(体育館など)の一般への開放	—
	イベントの開催(夏祭り・ハッピー四国など)	69
<b>社会との共生に関する活動</b>		
福祉活動	社会福祉団体のイベントへの参加	—
	社会福祉団体の製品の購入	—
社会教育の機会提供	CSR講演会(公開セミナー)の開催	—
科学技術の振興	藤原科学財団への財政面での支援	69
災害時の支援活動	ボランティア活動参加や支援物資の提供など	—
<b>環境に関する活動</b>		
植樹活動	植樹活動の実施・参加	70
生物多様性の保全	独自技術「容器内挿し木技術」の活用	44
	クレインズのタンチョウ鶴保護活動	70
	「森の町内会」活動の推進	—
	シマフクロウの保護区を設置	45
	「シラネアオイを守る会」の活動を支援	44
リサイクル活動の推進	「リサイクルプラザ紙遊館」の運営	—
	リサイクル推進団体の支援	50
	古紙リサイクル	70
	木屑リサイクル	70
	牛乳パックリサイクル	50
<b>教育に関する活動</b>		
社会見学の機会の提供	工場見学の受け入れ	71
社有林の活用	「森と紙のなかよし学校」の開催	71
就業体験の機会の提供	地域の人々の就業活動を支援	71
	インターンシップの受け入れ	—
音楽を通じた教育機会の提供	札幌ポップスコンサートへの児童・生徒ご招待	—
スポーツを通じた教育機会の提供	野球教室、野球大会の開催	71
	アイスホッケー教室、アイスホッケー大会の開催	—
	一輪車指導者の研修会の開催	—
教育現場への製品提供	教育機関への紙・印刷物の提供	—



日本製紙グループの主な社会貢献活動については  
ウェブサイトでもご覧いただけます  
<http://www.nipponpapergroup.com/csr/relationship/activity/>

# 地域・社会との共生などに関する活動

事業所を置く各地域で、自治体や地域の方々とともに暮らしやすい町づくりや、文化の保全、地域の活性化を図る取り組みを継続しています

## ■ 地域振興

### 事例 地域社会とともに地元特産品を育成 (チリ Volterra社)

ボルテラ社では、地域の方々とのコミュニケーション窓口を務める専任担当者を置き、近隣住民の方々からの要望を受け止め、植林事業推進と地域振興を両立できるように心がけています。

その一環として2011年から、新たな特産物としてキイチゴを栽培するという近隣集落の試みを支援。また、別の近隣集落との間で、地元で採れるニョチャという植物(藤の一種)を加工した民芸品製造プロジェクトも支援しています。



ニョチャでつくられた民芸品



初収穫したキイチゴと近隣住民の方々

## ■ 地域文化の保全

### 事例 先住民への配慮 (日本製紙USA社)

日本製紙USA社の位置する米国ワシントン州ポートアンジェルス地域には、伝統のあるthe Lower Elwha Klallam Tribe (LEKT)という先住民が生活しています。ポートアンジェルス工場に新たなボイラーを建設するプロジェクトに際し、日本製紙USAは連邦政府などとともにLEKTに働きかけ、土木工事の際に順守すべき点、埋蔵物が発見された場合の対処や、掘削作業中は文化遺産に知見のある考古学者が先住民が立ち会い確認をすることなどを合意しました。

新ボイラー建設プロジェクトの間、日本製紙USA社は全ての手順をしっかりと順守したことでLEKTとの間で良好な関係を築きました。

## ■ 地域との共生

### 事例 「ハッピー四国」プロジェクトを開始 (四国コカ・コーラボトリング(株))

四国コカ・コーラボトリング(株)は双方向のCSR活動を目指し、「ハッピー四国」プロジェクトを開始しました。四国をハッピーにするためのアイデアをウェブサイトなどを通じて募り、売上金の一部を活用して実施するプロジェクトです。

具体的には、香川県で、スポーツ少年団の団員が企画する父兄のためのスポーツ大会を実施し、愛媛県では、未就学児童にスポーツの楽しさや可能性を見出すことを目指したスポーツ体験(19種)イベントを、高知県では、自慢の場所をもっときれいにする桜を中心とした植樹を、徳島県では、商店街の復活を目指し空き店舗を活用した「お化け屋敷」などを開催しました。四国全体では、合計23のイベントを実施し約17,000人を超える皆さまのご参加を得て、好評をいただきました。



徳島「阿波幻獣屋敷」(お化け屋敷)

## ■ 科学技術の振興

### 事例 藤原科学財団への支援 (日本製紙(株))

(公財)藤原科学財団の「藤原賞」は、日本のノーベル賞ともいわれ、科学技術の発展に卓越した貢献をした日本の科学者を顕彰する学術賞です。創設者の藤原銀次郎翁が日本の科学技術の振興に貢献してきた精神を受け継ぎ、日本製紙(株)は財政的な支援を続けています。

2014年6月に表彰式が行われた「第55回藤原賞」では、東京大学大学院理学系研究科特例教授の中村栄一理学博士および東京大学大学院医学系研究科教授の宮下保司医学博士に、賞状と金メダル、副賞の1,000万円がそれぞれ贈られました。



贈呈式後に記念撮影

# 環境に関する活動

生態系の保護・育成や資源リサイクル、緑化など、地域や事業所の特性をふまえた環境保全活動に力を入れています

## ■ 植樹活動

### 事例 「丸沼高原 植樹2014」を開催 (日本製紙(株))

日本製紙(株)は、豊かな森林を未来に残していくための取り組みを進めています。その一環として2010年5月から群馬県の菅沼社有林で植樹活動を行っており、2014年5月に3回目となる「丸沼高原 植樹2014」を開催しました。東京地区を中心に参加者を募り、日本製紙グループ内外から約100人が参加しました。

参加者たちはスタッフの指導のもと移植ごてを使って次々と手際良く苗木を植え、用意した5種類、1,000本の苗木を30分ほどで全て植えました。今後も、植樹活動を継続して開催していく予定です。



斜面に1本ずつ苗木を植樹

## ■ リサイクル活動の推進

### 事例 古紙リサイクル活動の推進 (日本製紙(株)、北上製紙(株))

日本製紙(株)吉永工場では、都市型資源リサイクル工場を目指し「省資源の推進」のひとつとして、工場構外2カ所に大型の古紙リサイクルステーションを設置しています。古紙回収は決められた日時・場所に出す必要がありますが、24時間の持ち込みを可能とすることで、近隣の方々から「いつでも出せるので、ストックした古紙が邪魔で困ることがなくなった」と好評です。今後も、周辺地域へさらなる協力を呼びかけ、「24時間の古紙回収」計画を推進していきます。

また、北上製紙(株)では一関市周辺の小・中規模事業者や住民を対象に、自由に古紙を持ち込めるように工場内に古紙置場「紙源のカゴ」を設置し、段ボールや古雑誌などを受け入れています。なお、その収益金は、一関市の歳末助け合い募金として地域に還元しています。



北上製紙(株)の「紙源のカゴ」

## ■ 生物多様性の保全

### 事例 クレイنزのタンチョウ鶴保護活動 (日本製紙クレインズ ※アイスホッケーチーム)

日本製紙クレインズは、釧路湿原の環境保全と地域貢献の取り組みとして、毎年(公財)日本野鳥の会が主催する「タンチョウの餌場づくり」に参加しています。タンチョウは絶滅の危機にさらされましたが、保護活動の努力が実り、年々個体数が増加しています。しかし現状では、冬は人間の給餌がないと越冬ができなため、川付近の藪を払い、川に入りやすくすることで自力採食を促します。藪を払った場所にはモニターが設置され、実際にタンチョウが採食している様子を見ると活動の実感が湧いてきます。

クレインズの名称の由来となったタンチョウの保護活動をこれからも続けていきます。



藪を払う作業

### 事例 木屑リサイクル活動の推進 (株)南栄 ※日本製紙木材(株)の子会社

製紙・発電向けチップ製造のほか、日本製紙(株)社有林も含めた造林・伐出作業を請け負っている(株)南栄は、熊本県八代市で一般廃棄物や産業廃棄物のうち木屑の処理に特化した中間処理業も営んでいます。家庭や企業から排出される庭木や支障木、木質パレットなどを、タブグラインダー(破碎機)で細かく粉碎してボイラーの燃料として利用したり、木質の多いものはパーティクルボードの原料として販売しています。また、一部はオガ粉と混ぜて家畜の敷ワラの代替品として利用されています。最近では八代市のゴミ焼却場で処分されていた木屑も持ち込まれ、利用されています。この提携により八代市のゴミ減量にも大きく貢献しています。



庭木の持ち込み

# 教育に関する活動

工場見学や就業体験、スポーツ・芸術に触れる機会の提供など、子どもたちの健全な成長や就職に役立つさまざまな取り組みを展開しています

## 社会見学の機会の提供

2013年度は8,050人の小学生、中学生、高校生が日本製紙グループ各社の工場を見学しました。

## 社有林の活用

### 事例 毎年「森と紙のなかよし学校」を継続開催 (日本製紙(株)、日本製紙総合開発(株))

「森と紙のなかよし学校」は日本製紙(株)の国内社有林(約9万ヘクタール)を活用した、日本製紙グループ独自の自然環境教室です。社有林の豊かな自然に触れ、「森」と生活になくてはならない「紙」とのつながりを体験してもらう機会の提供を目的として、2006年10月に首都圏の代表的な社有林である群馬県の菅沼社有林(丸沼高原)でスタートしました。

「森と紙のなかよし学校」は、プログラム全体を従業員の知識と経験を活かして企画・運営しています。グループ従業員のガイドによる森林ハイキングや、森で拾ってきた小枝を材料にした紙づくりなど、参加者が楽しめるように趣向を凝らしています。参加者は一般から公募しており、募集や当日の引率などで(公社)日本フィランソロピー協会の協力をいただいています。菅沼社有林では2011年春の開催こそ東日本大震災の影響で中止しましたが、スタートから毎年継続して開催してきており、2014年6月までの計16回で、一般親子、地元の高校生など計545人が参加しました。

また、2007年からは日本製紙(株)八代工場を中心に



社有林散策の様子



参加者全員で記念撮影

熊本県の豊野社有林で「豊野・森と紙のなかよし学校」を開始し、地域に根ざした活動としてこちらも毎年実施しています。豊野ではプログラムのひとつに工場見学を織り込むなど、プログラム構成を開催地区ごとに工夫しています。

## 就業体験の機会の提供

### 事例 地域の人々の就業活動を支援 (ブラジル AMCEL社)

アムセル社はアマパ州政府や市、郡、地域コミュニティからの要請に基づいて、現地の工業訓練学校や商業訓練学校と協力して就業および職業訓練教育を実施しています。青少年や経済的に恵まれない人々を対象に、木材の学校\*1、青少年プロジェクト\*2といった教育プログラムが毎年実施され、アムセル社は主要なスポンサーとして参



木材の学校での木材加工実習

加しています。これらのプログラムは、アムセル社の本社のあるサンタナ市、オペレーション事務所のあるポルトグランジ郡、苗畑のあるタルタルガウジーニョ郡で行われ、1998年の開始以降、延べ2,800人以上が参加しています。

- \*1 木材の学校  
家具製造など木材加工技術を教える
- \*2 青少年プロジェクト  
整備士、美容師など手に職をつけるための教育をする

## スポーツを通じた教育機会の提供

### 事例 石巻工場野球部の野球教室 (日本製紙(株)石巻工場)

日本製紙石巻硬式野球部は、主に冬季期間に野球教室を開催しています。地元少年野球チームをはじめ、管内の高校生との定期的な合同練習やトレーナーの派遣も行い、生徒はもちろん指導者にもトレーニング方法を指導しています。福島県高野連からも依頼を受け、福島県の全校から1校につき4人が参加して、3日間に分けて1日約100人の生徒を指導し、好評を得ました。

野球教室以外でも「石巻川開き祭り」では、東日本大震災犠牲者の追悼の祈りを込めた灯笼流しの灯笼を作成するなど積極的に地域貢献活動を行っています。



野球教室の様子